

二千五百人が参列

神戸市立中央体育館で「震災一周忌法要」

物故者の増円妙道祈る

日蓮宗

日蓮宗（奥邨正寛宗務総長）では十七日午後、神戸市中央区の神戸市立中央体育館で宗務院主催による「阪神大震災物故者一周忌慰霊法要」を厳修した。

昨年の大震災では、宗門僧侶一人が亡くなったほか、檀信徒も百三十人余りが犠牲になったことから、一周忌にあたる十七日、宗門挙げて慰霊法要を執り行なったもので、これには地元の兵庫県東部宗務所（大塚泰詮所長）が全面的に協力、物故者の増円妙道を祈った。

法要に先立ち、総本山身延山久遠寺、全国日蓮宗青年会、福井県中部青年会、宗立熊谷学寮、兵庫県東部青年会、近畿教区らから参集した「行脚隊」百三十五人が被災地区を回りながら、慰霊の唱題行脚を行なった。

午後一時三十分、行脚隊の入場とともに法要が始まったが、会場となった神戸市立中央体育館には、一般の神戸市民を含めて僧俗二千五百人余りが参列。

はじめに犠牲者の名簿が宝前に奉呈され、奥邨正寛宗務総長の大導師、小倉光雄庶務部長、地元・兵庫県東部宗務所の大塚泰詮所長（近畿教区長）、同じく同宗務所の野口泰信協議員会議長、地元選出の中井泰淳宗会議員（宗務院人権対策室長）の四人の副導師のもと、日蓮宗近畿声明師会のメンバー二十二人が式衆となり、法味を言上して、大震災の犠牲者を回向した。

続いて、奥邨総長は次のような追悼文を奉読し、哀悼の誠を捧げるとともに、宗門挙げて復興事業への協力を誓った。

「慎み敬て勧請し奉る 南無輪円具足未曾有大曼荼羅御本尊 別しては南無久遠実成大恩教主本師釈迦牟尼佛 南無平等大慧一乘妙法華経 南無末法有縁之大導師本化上行宗祖日蓮大菩薩 来臨影響知見照覧の御前に於いて 阪神大震災物故者第一周忌法要を厳修し奉る

伏して惟るに 近年天災地災相次ぎ 大規模災害世界全土に亘る 就中 平成七年一月十七日未明 突如として起こる阪神大震災はその規模 史上稀有にして惨状言語に絶せり 住宅家屋倒壊し 道路橋梁決壊し 市街は灰燼に帰せり 殊に六千有余名の尊き人命を失いし事は 悲しみて嘆きて余りあり 剩へ被災避難せる人々 その数がぞえ難し

茲に正当一周忌を迎えるにあたり 我が宗門挙げて 阪神大震災にて殉難物故の諸霊の冥福を祈り追善法要を厳修し奉る

仰ぎ願わくは一切三宝哀愍救護の御手を垂れ 諸霊悉く妙法蓮華の台に坐し 等正覚を成ぜしめんことを 別しては我ら異体同心 心して復旧復興の社会事業への協力邁進せんことを誓い奉る南無妙法蓮華経

維時 平成八年一月十七日

日蓮宗宗務総長

奥邨正寛日鳳 和南」

この後、代表者による献香・献灯・献華があり、最後に渡辺清明総合企画部長が参列者に、

「京阪神・淡路島を中心とした広範囲にわたる大地震により、六千有余人の尊い人命が瞬時に奪われ、市街は倒壊と焼失で多くの被災者を出し、深い悲しみと嘆きに包まれ、当時の惨状を思い起こす時、痛恨の念深く、言葉を失うばかりである。しかし全国各地より、心暖まる義援金や救援物資による援助、救援活動、ボランティア活動に

よる励ましを頂き、宗門としても全国の寺院・教会・結社並びに檀信徒の協力のもと、種々の救援対策活動を展開してきた。本日ここに、皆様と共に物故された諸霊を追悼し、願わくは、一日も早い復興をめざし、共に手を携え、精進することをお誓い申し上げる」

と挨拶した。

また法要後、藤崎一明京都府第二部宗務所長（日蓮宗常任布教師）による法話「大震災に思う」があり、参列者は大震災に対するさまざまな想いを新たにしながら、これに聞き入っていた。

一般市民多数が参列した「一周忌慰霊法要」【写真は省略】

(c) 1996中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)